

温熱療法室の環境改善効果の NLR (Neutrophil/Lymphocytes ratio=好中球/リンパ球比) を用いた客観的評価

玉名地域保健医療センター 看護部 安田和史、野田友美、三井友美
臨床工学技士 井尾健剛、田上志津子
外科 赤木純児

【目的】

WHO による緩和ケアの定義でトータルペインを早期に発見し的確なアセスメントを行うことの重要性が問われている。当院での過去の研究でも、治療中の患者に対してトータルペインでのアセスメントを行うために、訴えを表出しやすい環境作りの取り組みを行ってきた。今回は、その効果を NLR を用いて客観的に評価した。

【方法】

平成 28 年 3 月から平成 28 年 4 月までの 2 カ月間で温熱療法を施行した 47 名に対して無作為に選出した 23 名に対して患者が好む音楽を流し、手足のマッサージを行った。それに対する患者・医療スタッフの反応と、NLR の変化を比較検討した。

【結果】

患者の反応としては、83%が治療時間が快適になったと回答した。また、身体症状の訴えが 96%に対して身体的 49%、社会的 17%、精神的 30%、スピリチュアル 4%と変化した。医療スタッフの反応としては、治療による身体的変化だけではなく、全人的に患者を理解できるようになった。という意見があった。NLR は、温熱療法単独と温熱療法+化学療法+介入群を比較すると介入群で有意差が認められた。($p=0.022$)

【考察】

今回の介入によって NLR が温熱療法単独よりも、温熱療法+化学療法+介入群が有意であったことから、多様な取り組みを行っていくことが NLR の改善につながると考える。